

令和3年9月7日
校長 浦野 浩二

2学期が始まって2週間が経過しました。非常に厳しい状況の中で、みんな本当によく頑張っていると思います。おかげで教育活動を止めることなく、3週目を迎えることができました。ありがとうございます。今はただ、学校で、家庭で、できることをただひたすらやっていく、「一所懸命」、みんなでこのピンチを乗り越えていきましょう！

【^{はやとも}早鞆の瀬戸を渡り給え 雲を越え 波を駆け 橋を渡り ^{うみぞこ}海底の道をくぐり】

7月某日、昭和26(1951)年3月に本校を卒業された下山公子さんが私を訪ねてこられました。福岡県立八幡女子高等学校の3回生だそうです。昨年、私が本校に着任した時もわざわざご挨拶に来ていただいたのですが、今回は下山さんが代表を務められている書道教室「清和会」の作品展「親しむ書」の案内でご来校されました。

作品展は旧百三十銀行ギャラリーで行われたのですが、その会場で下山さんは、書についてほとんど見る眼も知識もない私に、作品について丁寧に説明していただきました。ありがたいなと思うと同時に、コロナに負けず前向きに活動する下山さんのその矍鑠(かくしゃく)とした姿を見て、私などは「まだまだひよっこだな」と思った次第です。

中央高校には本当に素敵な先輩方がたくさんいますね。



冒頭の【 】にあるのが、下山さんの作品に書かれている言葉です。出典は、福岡県出身の栗原一登さんが作った合唱組曲「北九州」の第2章だそうです。私には知らないことばかりで感心しきり、とても新鮮で豊かな時間を過ごさせていただきました。後日、この合唱組曲について調べてみる

早鞆の瀬戸を渡り給え	早鞆の瀬戸を渡り給え
雲を越え	波を駆け
橋を渡り	橋を渡り
海底の道をくぐり	海底の道をくぐり
八重垣の雲を越え	八重垣の雲を越え
渦潮の波を駆け	渦潮の波を駆け
中空の橋を渡り	中空の橋を渡り
地に深き海底の道をくぐり	地に深き海底の道をくぐり
早鞆の瀬戸を渡り給え	早鞆の瀬戸を渡り給え
九州がある！	北九州がある！

と、その歌詞が味わい深くてなかなかいいのです。ここで紹介しますね。

※早鞆の瀬戸・・・下関市壇ノ浦と門司区和布刈との間の瀬戸。関門海峡の最も狭いところ。

【書道パフォーマンス甲子園】

書道つながりでもう一つ、この夏、愛媛県で行われた書道パフォーマンス甲子園。残念ながら優勝は逃しましたが、見事なパフォーマンスを見せてくれました。私自身、その展開の楽しさと作品の迫力は、参加校随一だと思います。手前味噌ですが・・・まだ、見ていない人は、彼女たちが表現したメッセージとともにそのパフォーマンスを是非見てみてください。素晴らしいですよ。中央高校のHPにリンクが貼ってあります。



書道部の生徒諸君、本当にお疲れさまでした。そして素晴らしいパフォーマンスをありがとう！2年生の諸君、来年のパフォーマンスにも期待します。

伝統を守り受け継ぐとは、新しい価値を生み出し続けること！がんばれ！